

柔道家がお友達を紹介

りれ→と→く

66

今月は
土川美和子
愛知県成年女子監督が語る
谷本歩実 選手

P R O F I L E

1961年6月1日生れ、愛知県出身。21歳。現日本→松任谷正隆旗下歌手。前年は原宿系ダンスグループ「極楽院」、22、23年は「狂歌音頭連隊」、日本グラミー22回、日本レコード大賞など多数受賞。2001年アーティスト大賞(オバマ賞)受賞。

明るくて、伸びやかで、度胸満点。
愛知県の期待の星

前回はせいぶん古く写真が出てきましたね(苦笑)。それにしても、ご縁全いたいたい高瀬(久和)先生とは長いお付き合いになりますが、普段はあまり話をしないんですよ。しかも、こんなにお認めいただいたのは初めてで照れます(笑)。では先生、ありがとうございました。

そろそろ君手渡しに回してほしい、という読者の要望もあると思いますので、同じ愛知県の出身で高校、大学の後輩にあたる谷本歩実を紹介させていただきます。

谷本を初めて見かけたのは、彼女が中学2年生のときの何かの大合の予選だったと記憶しています。当時から女性の選手とちょっと違ったところがありましたね。バトが大きいと、「ますます」、柔道では「アレ?!」と目を引くところがあり、この子は伸びてくるだろうななど感じました。

その後、都道府県対抗大会で愛知県チームとして一緒にになりました。このときのことを、今でもよく覚えています。まだ谷本は高校生でした。そうすると普通、全日本強化選手のA、Bクラスと対戦する



「アーティストの死」
1988年6月刊行。愛妻の死と、高級車で一日狂走一日死ぬ夫。愛妻の死を経ての情文女子監修として想出二三事、81年女刊本女子監修が著者。大好評連続刊行。〔著者略歴〕



ときには躊躇してしまうものです。でも谷本は、「勝ってきますね」とさらっと言って、ニコッと笑ったんですよ。なかなか言えない言葉ですよね。結果は引き分けだったんです。

が、そういう言葉をさらっと言えることに「すごいな」と思いましたね。もっとも、そう自分自身に言い聞かせていたのがもしれないんですが。

書籍の谷本はすごく明るい子です。とても優しくて、その優しさゆえに周囲のことをいろいろと考え過ぎちゃうところがあるんですね。

柔道はここでのところ安定期を生じました。以前は取るか取られるか、といつて、技は大きいけれど一本負けもするタイプで、危なっかしいところもありましたが、日本代表として世界の舞台に立ら、アジア

大会で優勝して、変わったように思います。国体監督としては、「各本なら取ってくれる」と安心して試合に通り出せるようになりました。強いうえに練習熱心で、率先してたくさん練習するので、地元・愛知での合宿のときなど、間延のいい手本となってくれています。

谷本へ。まずは代表として、周りを気にせず、持ち前のガッソで大阪富士祭を頑張ってください。そして、来年、愛知の女子選手として初のオリンピック選手となってくれたらいいなあと、密かに願っています。